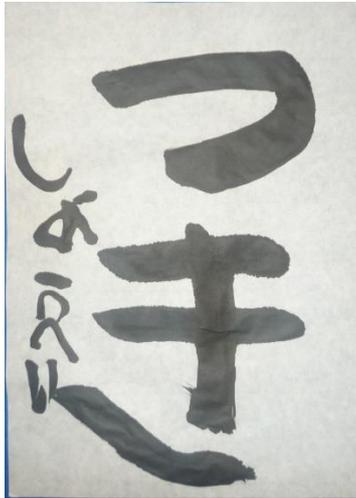
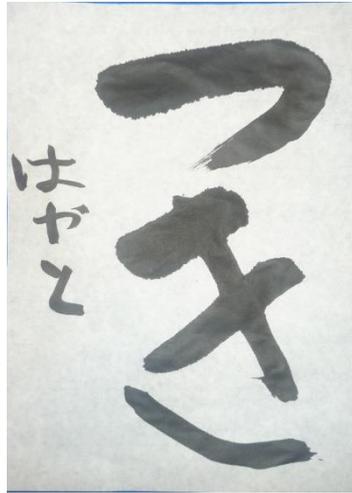


書道作品

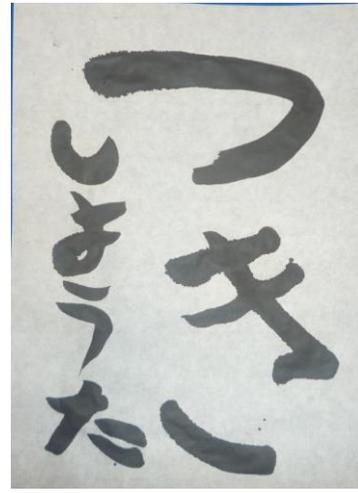
評 藤波 礼子



年長 K・S



年長 H・H

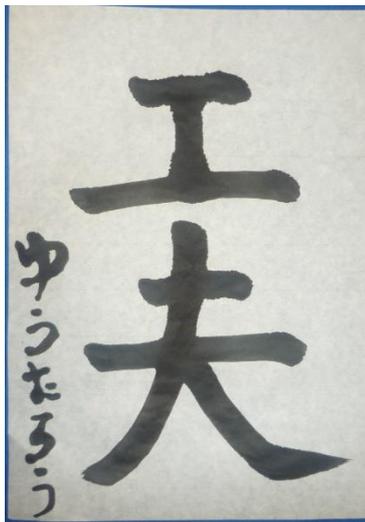


年長 M・S

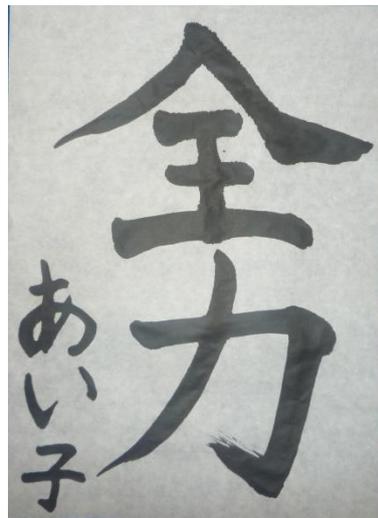
M・Sくん 思い切って、大きな気分で書きましたね。「き」の空間が、大きくあたたかで、素晴らしいです。

H・Hくん 筆を立てて、力強くていねいに書きましたね。中心が通っていて落ち着きのある作品です。

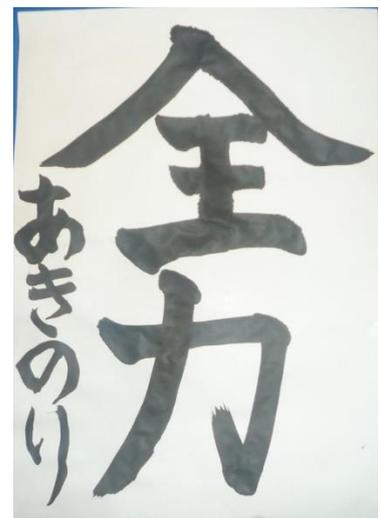
K・Sくん すみをたっぷりつけて、堂々と力強く紙いっぱい書いていますね。どっしりとした良い字です。



4年 Y・Y



3年 M・A



3年 H・A

H・A君 墨をたっぷり付けて書き、力強い作品になりました。入筆、はらい、曲がりがいねいで良い。

M・Aさん 紙いっぱいに、大きな気分で堂々と書いています。勢いがあり、おおらかで伸びやかな作品です。

Y・Y君 線質があたたかで、豊かなものを感じます。一字一字ていねいに心を込めて書きましたね。

【書き方の基本】

○点はいねいに。特に、方向、形、大きさを考えてじっくりとていねいに書いて下さい。

○左はらいは速く。といっても筆のいれ方はゆっくりといれてしっかり立ててからぐっとハネます。字によってはさっとハネたり、じっくりと長くハネたりします。一般に速くということです。

○右はらいはゆっくり。ゆっくりじっくりと書いて最後のハネは速くします。

○ハネ速く。ハネは速くといっても始めからでなく、特に最後のピンとしたところを速くさりとハネますと全体が生きてきます。

○横はゆうゆうと、起筆にはいるいろと方法もあります。筆を入れたら、少し引いて穂先を立てますから、少しゆっくりします。

○縦はどっしりと。縦は柱ですからゆっくりいれて、体ごとじっくりと引いてしっかりとめて下さい。

○画数の多い字は細目に、画数の少ない字は小さめに太く。

○画数の多い字の筆の入れ方や曲げるところや線は互いにゆずりあうように書きます。

○作品は形より線質をみる、強さ、のび、厚さ、勢い等。

◎とにかく手本を観ること、筆を立てること、体で書くこと、の三つを護っていたらひとりでこの作品は出来ていきます。「むねりま井一まじ